

## 伝え合う力を高める国語科学習の工夫 ～地域の歌碑「手水の縁」の教材化を通して～

南城市立知念中学校教諭 外間 牧 乃

### I テーマ設定の理由

学習指導要領国語科の目標の「伝え合う力を高める」とは、人と人の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に自分の考えや思いを表現し、他者の考えを正確に理解することを目指すことである。また、「伝統的な言語文化に関する事項」では、古典に親しませることや関心を広げたり深めたりすることを重視している。このことを踏まえ、「沖縄型授業づくり～にぬふぁ星メソッド～」においては、沖縄らしさを生かすために地域教育資源を活用する授業の工夫改善が求められている。

この2つの観点でこれまでの実践を振り返ってみると、「話すこと・聞くこと」の授業では、生徒に「何をどう話せばいいのか」、「うまく話せるか」という不安を抱えさせたまま、「伝え合う」目的や対象者を意識させられず、分かりやすく自分の考えを伝えさせる指導ができなかったために、教師主導で話し合い活動をさせることが多かった。また、地域教育資源を活用した郷土文学の授業では、教材研究や学習指導の工夫、関連資料を活用することが不十分だったために、生徒に興味・関心を持たせて授業に取り組ませることができなかった。たとえば、本校区には国及び世界の貴重な遺産である組踊があるにも関わらず、生徒は組踊「手水の縁」の歌碑の存在を知っているが、その内容について十分な知識を持っていないため、他者に伝えることができない現状がある。

そこで、生徒の身近にある郷土文学・歌碑「手水の縁」を教材化することで、生徒の興味・関心を高め、目的や状況に応じた話し方を学ばせ、目的に沿って話し合うことや互いの発言を検討してまとめたことを伝え合う場の設定が必要であると考えた。

従って、本研究では3つの段階で研究を進めることにした。まず、琉歌と組踊「手水の縁」のあらすじを視聴覚教材化し、生徒に視聴させることで作品への興味・関心を引き起こさせる。次に、作品に表れたものの見方や考え方に触れさせ、登場人物や作者の思いなどを想像させる言語活動を設定する。最後に、資料を効果的に活用しながら作品について伝え合える場を設定することで、作品から考えたものの見方や考え方、それをどのように伝えるかを互いに「話すこと・聞くこと」を通して、「伝え合う力」が高まると考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説と検証計画

#### 1 研究仮説

「話すこと・聞くこと」の領域において、次のような学習の工夫を行えば、生徒に郷土文学への興味・関心を持たせ、「伝え合う力」を高めることができるであろう。

- (1) 琉歌の大意と組踊「手水の縁」のあらすじをまとめた視聴覚教材の制作と活用
- (2) 効果的な話し方を学ばせ、言語活動を通じた学習指導の工夫
- (3) 考えたことやまとめたことを人前で伝え合える場の工夫

## 2 検証計画

	検証の場面	検証の観点	検証の方法
常時活動	・4月から朝の会で一人ずつ自由なテーマで「1分間スピーチ」を行い、人前で話すことに慣れさせる。		
① 事前調査	・内容：国語（琉歌や組踊等を含む）に関するアンケート ・方法：記述式 ・期間：10月～12月実施		・事前アンケートを通して実態を分析する。
② 教材制作	・現地調査，資料収集及び編集を行う。	・組踊「手水の縁」と琉歌2首の情景や人物の心情を分析する。	・書物やDVDの分析 ・現地調査による資料収集
③ 検証授業	展開 ・1月中旬～2月上旬 ・2クラス12時間	・歌碑「手水の縁」の視聴覚教材を学習に活用することは、生徒の興味・関心を持たせることに有効か。 ・単元を貫く言語活動を通して、伝え合う力を高めることができたか。	・学習シートの記述 ・生徒のPR内容や発言 ・自己評価，相互評価 ・5行まとめ
④ 事後調査	・内容：国語（組踊や歌碑等を含む）に関するアンケート ・方法：記述式 ・期間：1月～2月実施		・事後アンケートを分析
・歌碑「手水の縁」を視聴覚教材化し，それを活用した学習を通して，生徒に効果的な話し方を学ばせ，言語活動を通じた学習指導の工夫を行い，人前で考えたことやまとめたことを伝え合う場の工夫を行うことで，伝え合う力が高まったか。			・①②③④の結果

## Ⅲ 研究内容

### 1 伝え合う力を高める国語科学習とは

#### (1) 「伝え合う力」の重視

国語科の最大の基本目標は、「人間と人間との関係の中で，互いの立場や考えを尊重しながら言葉で『伝え合う力』を高めること」である。人が話す・聞くときには「相手」が存在し，その相手に対しどこで，どんな状況で，どのように，何の為に話す・聞くのかという意識を持つことが必要となってくる。従って，「伝え合う力」を高める工夫として「5つの言語意識」に着目していく。

#### (2) 「伝え合う力」を高めるための工夫

##### ① 「5つの言語意識」の明確化

「伝え合う力」を高めるためには，指導者が「5つの言語意識」（相手意識，目的意識，場面や状況・条件意識，方法意識，評価意識）を明確に持ち，生徒に「誰に，何のために，どんな場面や状況・条件で，どんな表現や理解の方法で，何ができるようになったか」を意識させることで，主体的に学習活動に取り組ませることが重要だと考える。その具体的な内容を表1に示した。

表1 具体的な「言語活動の意識」

5つの言語意識	本研究の学習活動における生徒の意識
相手意識	地域の幼稚園児，小学校5年生
目的意識	歌碑「手水の縁」について効果的にPR（英語 public relations, 略語PR）し，知ってもらおう。
場面や状況・条件意識	幼稚園児の教室，小学校5年生の教室でグループになって紹介する。
方法意識	紙芝居やパネルを効果的に活用して，①②をPRする。 ① 琉歌の大意と作者の思いや情景 ② 組踊「手水の縁」のあらすじや特徴等
評価意識	PRの内容や話し方を互いにアドバイスし合う。 自分の考えを相手に伝えられたか，PRが効果的か，学習を振り返る。

## ② 「単元を貫く課題解決的な言語活動」

富山哲也氏は、「単元を貫く課題解決的な言語活動」を「複数の指導事項にまたがるひとまとまりの言語活動を設定すること」であり、それを行うことによって生徒は課題を解決しながら思考・判断・表現する力を身に付けていくと述べている。つまり、1時間毎の言語活動ではなく単元全体を見通した言語活動を行うことで、授業で学んだ力を活用していこうとする学習である。

## ③ 本研究で用いる言語活動

樺山敏郎氏編著の『実践ナビ！言語活動のススメ／モデル30』の中の「紙芝居」と「読書C（英語 commercial message, 略語CM）」を参考に、郷土文学をPRするための紙芝居とCMの言語活動を取り入れた「話すこと・聞くこと」の授業を行うことで、生徒が単元全体の見通しを具体的に持つことができ、効果的に伝える力を高めていくものとする。

## ④ 紙芝居とCMの言語活動

「単元を貫く課題解決的な言語活動」は、学習を通して生徒に身に付けさせたい力を踏まえた上で、言語活動を行うのは言うまでもない。そこで、本研究の重点指導事項「（1）ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと」を踏まえ、歌碑「手水の縁」について紙芝居やCMでは論理的な構成や展開を考えることにつなげる。紙芝居は、組踊「手水の縁」のあらすじが描かれた32場面のイラストの中から生徒が活用するものを選択し、構成や台詞を考えて伝える言語活動である。また、CMは作者や組踊の写真、文献資料を準備し、1枚のパネルを効果的に活用して伝える言語活動を行う。双方とも伝えるためのPRの内容を考える過程で、生徒同士で互いに意見を交流させることで、思考・判断・表現できる言語活動へとつなげられると考える。

## 2 伝統文化の特徴

### (1) 伝統芸能の宝庫（組踊の上演）

「沖縄の文化」「沖縄の伝統」等の書籍が並び、沖縄の伝統文化の継承・発展が重要視される現在、各地域で独自の伝統文化を継承し続けている。本校区の知念字山里と知名において、かつて上演されていた組踊「手水の縁」は、現在では上演されることはなくなっている。しかし、南城市が首里王府の東廻りの経路であったため、実に多くの組踊が存在しており、字久手堅の組踊「鏡の割」は国指定を受け、区民あげてその継承に努めている。

### (2) 歌碑「手水の縁」の魅力

組踊「手水の縁」には、平敷屋朝敏が創作したとされる五・七調リズムの「仲風節」が初めて取り入れられる等、現在人気とされる10曲の古典民謡が用いられている。また、玉津に夫婦の縁を結ぶようにと執拗に迫る山戸の口説き文句は、沖縄の許田にまつわる故事「手水の縁」が用いられていることも、魅力の一つである。

### (3) 組踊「手水の縁」のあらすじ

「春のある日、山戸は瀬長山での花見帰り、波平玉川で美しい娘玉津と出会う。ひとめぼれした山戸は、手水をくれるようにと言ひよる。玉津は困惑してことわるが、身投げをするという山戸の熱意にほだされ、手水の縁をむすぶ。二人は再会を約束して別れる。ある晩、山戸は玉津の屋敷に忍び込むが、門番に見つかり、密会したことが玉津の父親の知るところとなる。家名に傷がつくことを恐れた父親は、すぐに玉津を処刑しよう家来たちに命じる。だが、刀をふりかざし、今まさに処刑が行われようとするところへ山戸がかけつけ、玉津の命乞いをする。どうしても処刑するのであれば、いっしょに殺してくれという山戸。一途な愛に心を打たれた家来たちは、若い二人を逃がしてやることにする。」（『沖縄学習まんが 組踊がわかる本Ⅱ』沖縄文化社から引用）

#### (4) 琉歌について

琉歌とは、八・八・八・六音のリズムで、詠む・謡う短歌であるとされている。沖縄の古語で表現された琉歌には①王国の繁栄を願う祝歌、②季節や景色の情緒を表現した四季歌、③男女の恋愛の葛藤を情熱的に表現した恋歌、④儒教的な道德思想を織り込んだ教訓歌、⑤旅立ち、道中の切なさを表現した旅歌をテーマにしたものがある。本研究で取り扱った歌碑「手水の縁」の「仲風節」（資料1のA）と「述懐節」（資料1のB）はどちらも③の「恋歌」にあたる。

※ 地元の歌碑の表記とは違うが、教材に活用し易いように改善を図り提示した。

琉歌	うちな一ぐち	大意
A 暮らさらぬ 忍で来やる 御門に出ち召しやうれ 思ひ語ら	くらさらん しぬでい ちやる うじよに んじみしより うむい かたら	我慢ができないので 忍んで来た 門の外に出てきて 思いを語ろう
B 結で置く契り この世までと思うな 変わるなやう互に あの世までも	むすでいうくちぢり くぬゆまでいとう うむな かわるなよ たげに おぬゆ までいん	結んだ約束は この世だけと思うな 変わるなよ互いに あの世までも

資料1 本教材の琉歌

### 3 視聴覚教材化の利点

利点1	音声を通した内容の理解 ～琉歌のリズムを味わう～
	琉歌特有の節のある「唱え」や「古典民謡」である「うちな一ぐち」を聞かせることで、琉歌は「謡う」ものであると意識させたい。また、琉歌を何度も口にさせることで、独特の響きやリズムを、強いては昔から歌い継がれてきた身近なものだと感じ取ることができる。
利点2	視覚による内容の読解 ～作品のあらすじと琉歌の場面を捉える～
	古典を身近に感じさせ興味・関心を持たせるために、写真やイラスト等の視覚効果を生かした郷土文学の情報や知識を持たせることで、作品のあらすじや琉歌の情景、登場人物の関係等を理解することができる。
利点3	想像力を促す思考の働き ～自己の考えを深思する～
	資料や視聴覚教材から得た情報や知識を基に、作品の時代背景や登場人物の心情を想像させ、さらに「疑問を見つけ、調べ、話し、聞いて、考える」サイクルを行わせることで、思考・判断・表現につなげることができる。

## IV 検証授業

### 1 教材名 歌碑「手水の縁」をPRしよう（第2学年 自作教材）

### 2 教材設定の理由

#### (1) 教材観

琉歌は琉球王府の時代から庶民の間でも謡われ、沖縄の人々にとって深く親しまれ心の拠り所でもあり、大切にしていきたい固有の伝統文化の1つである。また、思いを凝縮させ唱えるという形式は、変化し続ける社会に生きる私たちにとって、古語の響きやリズム、想像力をかきたてるものである。和歌を基に、わずか30音という短い言葉の中で、先人はどのような技法を使って思いを表現したのだろうか。生徒たちが琉歌や組踊を学ぶことは、古語で感情を表現した郷土文学に触れ、親しみ、魅力を発見できる機会であると考え。郷土文学である歌碑の琉歌から、その時代背景や生き方・情景・人物の思いを読み取り、自分なりの言葉で表すことは、琉歌の世界を想像する力が身につくであろうと考える。そして、地域の貴重な郷土文学である組踊「手水の縁」に関する資料を活用し、琉歌2首の内容やその魅力をどのように話せばよいかを互いに考えることで、相手に効果的に伝える話し方や構成、ひいては自らの考えを広げる力にもつながるのではないかと考える。

以上のことから本教材は、郷土文学である歌碑の琉歌2首と字山里（旧山口）が舞台となっている組踊「手水の縁」に対する興味・関心や豊かな想像力、そしてそれを伝えようとする表現力を育むことができる教材である。

## (2) 生徒観

生徒たちは、1年生では古典学習において、川柳を作り古典の響きに親しんできた。宇山里にある歌碑を実際に訪れて琉歌に触れたが、琉歌や組踊「手水の縁」の内容については、十分な知識を持っていない。2年生では「近代の短歌」において、「短歌から作者の思いや情景を想像する力」を身につける学習に取り組んだ。

10月に行ったアンケートでは、「グループ間で友達に自分の考えを伝えることができる」と回答したのは52%、「皆の前で自分の考えを伝えることができる」と回答したのは31%である。アンケートの記述では、本校区の各字の伝統的行事で郷土芸能が披露されているが、地域の伝統行事に誇りを持っていない生徒や、国の重要無形文化財である組踊や歌碑は貴重なものだと感じつつも、内容を理解していないために身近な人に伝えられない生徒が77%いる。また、郷土の言語文化である方言を聞き取ることや使うことができる生徒は1%未満である。郷土芸能や郷土文学に関心はあるものの、その知識・理解の不十分さが窺える。

本学級の生徒は、男女とも落ち着いた雰囲気ですべて学習に集中して取り組み、設定した課題の調べたことや考えたことについては人前で発表できる。しかし、自分の考えを主体的に発表する生徒は限られている。また、常時活動である「1分間スピーチ」で発表することには慣れているが、論理的な構成や展開が不明確で、聞き手に効果的に話す意識が低い生徒も見られる。

## (3) 指導観

人前で効果的に自分の考えを話したり聞いたりするためには、「5つの言語意識（以下「5つのポイント」と表記する）」（表1）を学習させることが必要である。また、琉歌と組踊「手水の縁」の基本的な知識、琉歌の情景や人物の心情、「手水の縁」の魅力等について、自作の視聴覚教材を活用して押さえさせ、PRの手段として紙芝居またはCMのどちらかを選択させる。さらに、その構成・展開を考えさせる意見交流を通して、効果的なPRができるであろうと考える。言語活動の目的や方法を明確にするために、単元の見通しを持たせ（資料2）、ペア、グループ、全体による意見交流の場を設定する。その際、教師による生徒の思考を促す発問に留意し、生徒が制作した紙芝居やパネルを活用させ、「5つのポイント」を意識させながら生徒の活発な意見交流を図る。

## 3 指導の実際

### (1) 教材の目標

- ① 目的や状況に応じて、資料等を効果的に活用して話すことができる。
- ② 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、自分の考えを広げることができる。
- ③ 琉歌のリズムを味わい、組踊について理解し、古典の世界に触れることができる。

### (2) 本教材における言語活動

歌碑「手水の縁」を効果的にPRする。

（関連：言語活動例ア）

6時間目	5時間目	4時間目	3時間目	2時間目	1時間目	時間
☆ 手水の縁を効果的にPRする。	😊 お互いにアドバイスする。	★ PRの内容や話し方について工夫を話し合う。	★ 紙芝居・パネルの効果的な展開について話し合う。	★ 紙芝居・パネルの構成の答えにつづき、分かりやすく発表する。	★ 効果的な話し方を学び、琉歌二首の特徴や疑問等と交流する。	学習計画内容

資料2 見通しを持たせた学習計画内容

### (3) 教材の評価規準

○国語への関心・意欲・態度	●話す・聞く能力	■言語についての知識・理解・技能
・歌碑「手水の縁」について関心を持ち、課題解決に取り組むことができる。	・目的や状況に応じて、紙芝居・パネルを効果的に活用し、分かりやすく話すことができる。(ウ) ・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、友達の見解から自分の考えを広げることができる。(オ)	・琉歌特有のリズムを味わうことができる。 ・組踊「手水の縁」の作者や時代背景、内容等について理解し、古典の世界を知ることができる。

(4) 学習指導計画と評価計画（6時間）

時間	★目標・学習活動	指導の留意点	評価内容 [方法] ○関・意〈毎時〉●話・聞■知・理・技
1	<p>★効果的な話し方を学び、琉歌2首の特徴や疑問等を伝えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジャパネットたかた」CMを鑑賞し、効果的な話し方に気づく。（ペア）</li> <li>・「5つのポイント」を学ぶ。</li> <li>・琉歌2首の作者の心情や情景等を話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「構成」「表現（表情・言葉）」の視点を気づかせる。</li> <li>・メモは取らせず、意見交流に集中させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特徴や疑問等を積極的に話し合っている。（オ）[観察, 自己評価]</li> <li>■琉歌のリズムを味わっている。[音読]</li> </ul>
2	<p>★組踊「手水の縁」の特徴や疑問の答えについて、分かりやすく伝えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材を鑑賞する。</li> <li>・調べたことを発表する。（4・5名グループ）</li> <li>・効果的な話し方を活かし、再度発表する。（ペア）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモは取らせず、内容に集中させる。</li> <li>・発表者は起立させる。</li> <li>・意見やキーワードを用い、発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目的に沿って話し合い、自分の考えを広げている。（オ）[観察, 自己・相互評価]</li> <li>■「手水の縁」について理解している。[観察, 学習シート]</li> </ul>
3	<p>★「ジャパネット知念」式、PRの構成や展開について話し合える。（4・5名グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居・パネルのどちらかを選択する。</li> <li>・PRの構成や展開を話し合う。</li> <li>・話し合った内容を原稿シートに（箇条書き）記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストや写真を選択させる。</li> <li>・大型テレビで原稿シートを紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合っている。（オ）[観察, 自己評価]</li> </ul>
4	<p>★紙芝居・パネルの効果的な工夫について話し合える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居・パネルを制作する。（4・5名グループ）</li> <li>・PRの練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で話し合った発表の構成や展開等を意識して考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合っている。[観察, 作品, 自己評価]</li> </ul>
検証 5	<p>★PRの内容や話し方について、お互いにアドバイスできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PRのリハーサルをする。</li> <li>・他のグループからアドバイスをもらう。</li> <li>・グループで再度検討し、発表の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型テレビで生徒のPRの様子を紹介する。</li> <li>・アドバイスを取り入れながら、練習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌碑「手水の縁」について関心を持ち、課題解決に取り組むことができる。[観察, 5行まとめ]</li> <li>●紙芝居・パネルを効果的に活用してPRし、その構成や展開、話し方についてアドバイスしている。（ウ・オ）[発言, 自己評価, 相互評価]</li> </ul>
6	<p>★「ジャパネット知念」式、歌碑「手水の縁」を効果的にPRできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PRの方法と評価方法を説明する。</li> <li>・幼稚園児、小学校5年生の前でPRをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスを活かした発表を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手に分かりやすく、資料等を効果的に活用して話している。（ウ）[観察, 自己評価]</li> </ul>

#### 4 本時の学習（5／6時間）

##### (1) 本時のねらい

PRの内容や話し方について、お互いにアドバイスできる。

##### (2) 本時の授業仮説

- ① 紙芝居・パネルを活用し、歌碑「手水の縁」を分かりやすく工夫してPRさせることができたか。
- ② 交流の場を設定することで、PRの内容や話し方について、互いにアドバイスさせることができたか。

##### (3) 本時の展開

時間	学習活動	指導の留意点	支援の手立て	評価内容 [方法]
導入 5分	① めあてを確認する。  <b>★ PRの内容や話し方について、お互いにアドバイスできる。</b>  ② リハーサル方法を確認する。 ・紙芝居とCM同士でペアになる。 ・PRとアドバイス時間は、それぞれ5分とする。 ・ベルの音で、開始・終了の合図とする。 ③ 学習シートと評価シートの確認をする。	・活動を理解させる。  ・アドバイスのポイントを意識させる。	・5つのポイント、効果的な資料の活用方法、PRの方法を書いた短冊を掲示しておく。	○「手水の縁」について関心を持ち、課題解決に取り組もうとしている。 [観察] [5行まとめ]
展開 35分	④ グループで発表の確認をする。  ⑤ PRのリハーサルをする。 ・自分の言葉で表現する。 ・紙芝居・パネルを効果的に活用する。 ・発表の構成や展開等が効果的に伝わったかどうか互いにアドバイスし、グループのPRに役立てる。 ・アドバイスする際は、根拠を述べる。  ⑥ グループで修正後、練習をする。  ⑦ 全体でアドバイスの内容を共有する。	・PRの内容や役割を確認し、練習させる。  ・生徒の発言を聞き取り資料の活用の様子を注意して観察して、発問しながら内容を深めさせる。  ・全員にアドバイスさせる。  ・アドバイスを取り入れながら、練習させる。  ・アドバイスの内容を基により効果的なPRを話し合わせる。	・声量や話す速さを意識させる。  ・アドバイスに結び付く発問をし、アドバイスできるようにさせる。  ・できていたことを具体的に取り上げ賞賛する。	●紙芝居・パネルを効果的に活用し、分かりやすく工夫してPRしている。(ウ)  ●PR内容が効果になっているか意識して、アドバイスしようとしている。(オ) [生徒の発言] [自己評価] [相互評価] [5行まとめ]
終結 10分	⑧ 5行まとめを書く。  ⑨ 次時の確認をする。 (幼稚園・小学校へ行く)	・効果的なPRやアドバイスができたかを書かせる。		

### (5) 生徒の相互評価のポイント

- ① 「5つのポイント」がきちんと意識されているか。
- ② PRの内容は、分かりやすいか。〔琉歌・「手水の縁」の説明／説明の順番（構成・展開）〕
- ③ 紙芝居・パネルを効果的に活用しているか。〔写真、資料の見せ方／提示の順番〕
- ④ メンバー全員がPRをしているか。
- ⑤ 「根拠」を述べながらアドバイスしているか。

## 5 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、評価のものさし（表2-1, 2）をもとに、生徒の発言や紙芝居・パネルの作品、自己評価、5行まとめ（検証の視点をもとにしたまとめ）から考察する。

### (1) 授業仮説①について（表2-1から）

紙芝居・パネルを活用し、歌碑「手水の縁」を分かりやすく工夫してPRさせることができたか  
3・4時間目に掲示した32枚のイラストの中から、どれを選択すると組踊「手水の縁」の内容を相手に分かりやすく伝えることができるかという視点で、グループの話合い活動が行われた。「石碑」を「いし」, 「何者だ」を「だれだ」のように園児でも分かるようにした台詞や表記等の工夫を凝らしたグループがあった。また、パネルでは、PRの構成が効果的に伝わるように写真の配置や文字の大きさ、話す順番を考慮させることで、中央と両側に分割した見やすい配置、組踊の価値、歌碑「仲風節」の説明、「身投げ」を「川で自殺する」のように言い換える等の工夫を凝らしたPRをさせることができた。しかし、グループ全員のPRの内容等についての共通確認が十分に行われていないグループがあり、効果的なPRをさせることが不十分であった。

以上の結果から、紙芝居・パネルを活用させることで、歌碑「手水の縁」を分かりやすく工夫してPRさせることには課題が残った。

表2-1 評価のものさし（資料活用とPR）

場面	検証の視点	◎ 十分満足	○ 満足	△ 努力必要	検証方法
資料等の活用	歌碑「手水の縁」を分かりやすく工夫し、紙芝居・パネルを制作できたか。  紙=紙芝居 パ=パネル	紙構成を吟味し、スムーズな展開ができるようにイラストを選択し、歌碑の写真も取り入れている。 パ台詞に沿った構成を吟味し、スムーズな展開ができるように写真を配置して、文字を厳選している。	紙あらすじを捉え、イラストを選択し、歌碑の写真も取り入れている。 パ構成をもとに写真を配置し、説明を簡潔に書いている。	紙あらすじが繋がらず、分かりにくい。 パ台詞と合わない構成で、説明が簡潔ではない。	・授業観察 ・作品 ・5行まとめ
	結 果	48%(12人)	20%(5人)	32%(8人)	
PR	紙芝居・パネルを活用して、歌碑「手水の縁」を分かりやすく工夫してPRさせることができたか。 〈聞き手〉 □小学生 ■園児	□構成を吟味し、歌碑「手水の縁」をスムーズな展開で、PRしている。作品の特徴や価値等を分かりやすく説明している。 ■相手に分かる言葉で、あらすじの台詞を言い換え説明をしている。	□スムーズな展開で、パネルの構成に沿って分かりやすく説明している。具体的な説明が少ない。 ■相手に分かる言葉に直した内容や話し方になっている。	□台詞とパネルが合わず、バラバラな配置の説明で、分かりづらい。言葉が端的過ぎる。 ■台詞が短く、あらすじが急展開すぎて分かりにくい。	・授業観察 ・5行まとめ ・PRの原稿 ・相互評価シート
	結 果	32%(8人)	40%(10人)	28%(7人)	

(2) 授業仮説②について（表2-2から）

交流の場を設定することで、PRの内容や話し方について、互いにアドバイスさせることができたか。

グループのメンバー全員が意見を述べるという指導を行い、互いにアドバイスさせることはできた。例えば、「小学生は『（山戸が玉津を）預からせて下さい。』の意味を分からないので言葉をかえた方がいい」というアドバイスを受け、「一緒に逃げる」のように言い換える生徒同士の意見の深め合いがあった。しかし、アドバイスの内容が「話し方」に留まってしまう場面が多く、「内容」に関するものは少なかった。例えば、紙芝居グループに対する「展開が早すぎるから、もっと内容を増やす」というアドバイスでは、「なぜもっと内容を増やす必要があるのか」、「どの場面を加えると効果的か」という発問を投げかけ、必要な場面の選択を討論させることで、内容に関する意見交流が行えたと考える。また、「なぜ身分が違うのか」、「なぜ密会しなければならなかったのか」等の時代背景に関する発問をすることで、意見が活発化し生徒同士の内容の深まりができたであろう。このことから、交流の場を設定することでPRの話し方への相互アドバイスは達成できたが、内容に関するアドバイスには課題が残った。

表2-2 評価のものさし（相互交流）

場面	検証の視点	◎ 十分満足	○ 満足	△ 努力必要	検証方法
相互交流	交流の場を設定することで、PRの内容や話し方について、互いにアドバイスさせることができたか。	内容や話し方について何を伝えているのか分かりやすい。具体的な言葉を挙げて、自分の言葉でアドバイスしている。	根拠を基に、自分の言葉でアドバイスしている。	自分の言葉でアドバイスできず、友達のアドバイスを聞いている。	・授業観察 ・相互評価シート ・5行まとめ ・生徒の発言
結果		12% (3人)	72% (18人)	16% (4人)	

V 研究の結果と考察

研究仮説の考察は、まず視聴覚教材を制作し検証授業に取り入れ、生徒のアンケート結果から事前事後の比較を基に行う。

1 琉歌の大意と組踊「手水の縁」のあらすじの視聴覚教材化と活用は、生徒に郷土文学への興味・関心を持たせることに有効であったか

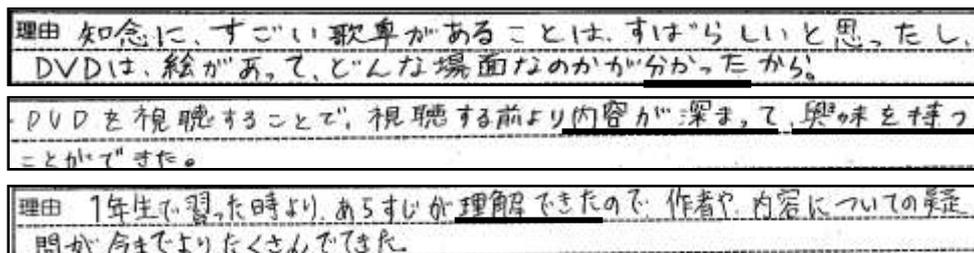
視聴覚教材の構成は、南城市で上演されたことのある組踊の紹介（地図）、静止画であらすじを展開、物語のどの場面に琉歌が謡われているのか実在の歌碑を紹介、琉歌はうちな一ぐち読み（音声）大意（文字）で表現したものである（資料3）。視聴後は、資料4のような感想の記述もあり、あらすじは100%の生徒が分かりやすいと回答し、91%が「手水の縁」について興味を持つことができた」と回答した。

従って、琉歌の大意と組踊「手水の縁」のあらすじを視聴覚教材化することは、生徒に郷土文学である琉歌と組踊「手水の縁」の興味・関心を持たせることとあらすじを理解させるのに有効であったと言える。



2人が会う約束をする場面

資料3 視聴覚教材の一部



資料4 視聴覚教材鑑賞後の感想

2 効果的な話し方を学び、言語活動を通じた学習指導の工夫は、生徒の伝え合う力を高めることに有効であったか

(1) 「5つの言語意識」の明確化（生徒の観察から）

生徒に「5つのポイント」の短冊を掲示し、意識させた（表1）。全てのグループが、話し合う中で小学生や園児を想定して「琉歌」、「歌碑」、「組踊」、「手水」、「仲風節」、「名高い」、「美男美女」等の言葉を言い換え、具体的な説明の仕方について吟味していた。このことから、特に「相手意識」、「目的意識」を持たせることができた。

(2) 「単元を貫く課題解決的な言語活動」（生徒観察、5行まとめ、作品から）

生徒に見通しを持った学習（資料2）に取り組ませることで、歌碑「手水の縁」をPRするためのペアやグループでの話し合い活動を行わせることは（資料5）、他者との相違点や類似点を考え、さらに新たな意見を生み出したり、互いの意見を収束していたと考えられる。これは、生徒の思考・判断・表現できる言語活動へとつなげることができたと言える。しかし、評価の方法を明確にするためには、5行まとめを記述させる際に生徒の「どんな意見がどう変わったのか」という具体的な内容を書かせることが必要であった。言語活動においては、紙芝居・パネルの効果的な活用は、評価のものさしに照らし合わせて評価していくと、相手を意識した工夫点もある反面、事実と異なる記述等の改善点も見られた（表4）。

従って、伝え合う内容の深化を図ることに課題は残るが、効果的な話し方を学び、言語活動を通じた学習指導の工夫は、生徒の伝え合う力を高めることに有効であった。

<p>生徒Aの発表</p> <p>僕達は、琉歌Bの「結んだ約束」は、<u>Rさんは、生きている時に約束したことだと言っていたけれど、僕は「結婚の約束」ではないかと思いました。だけど、Rさんの意見も聞いてみると、そうなのかなと迷ってしまいました。</u></p>	<p>5行まとめ</p>	<p>考察</p> <p>① 自分で思考したことを互いに伝え合う（表現）中で、異なる意見に気づき（判断）、新たな思考が生まれている。</p>
		<p>考察</p> <p>② 他者の意見と自分の意見の共通点や反対意見を判断し、さらに意見（思考）を交流（表現）することで、意見を収束し表現している。</p>

資料5 生徒Aの発表と5行まとめ

表4-1 紙芝居の工夫点と改善点

評価	工夫点（○構成・展開、●文字）／改善点（△）／生徒作品		
A	○スムーズな展開で裏に台詞が書かれている（三線の入りも明記されている）。	○「→」や「おとこのこ」等の説明を分かりやすく書き加えている。	●「待て」、「何者だ」等の漢字を「まて」、「だれだ」と園児に分かる言葉や平仮名で書き直していた。
	<p>表紙</p> <p>●題名を平仮名、柄杓の絵等園児の興味を引きつけている。</p>	<p>山戸が登場する場面</p>	<p>二人の密会が門番に見つかる場面</p> <p>※著作権保護の為、原画を掲載している。</p>

表4-2 パネルの工夫点と改善点

評価	工夫点 (○構成・展開, ●文字) / 改善点(△) / 生徒作品	
A	●「手水」の意味が簡潔である。	△「手水」の意味を表すイラストを使う。
	△事実と表記が異なる。(×「父」)	○文字や写真の配置にまとまりがある。
	●キーワードは、色画用紙を使って強調している。	○見出しに工夫がある。
		○右半分に歌碑の写真を配置し、その真ん中に琉歌のリズムを色画用紙に書いて、分かりやすくしている。

3 人前で考えたことやまとめたことを伝える場の工夫は、生徒の伝え合う力を高めることに有効であったか（アンケート結果から）

ペアやグループ学習、アドバイスの場面では、他者の意見を聞くことで考えを多角的に捉え、自分の考えを深めた生徒の割合が91%であった（資料8）。思考し、表現することを通して、「アドバイスを生かして伝えることができた」、「改善すべきことも踏まえてしっかり発表できた」等の生徒の意見が見られ、異年齢集団に発表する場の設定をすることは、アドバイスを踏まえグループで話し合っただけで考えたPRの内容を伝えようとするのに有効であったと考えられる（資料9上段）。また、異年齢を対象にしたことで、より相手を意識するようになり言葉の意味を考え、分かりやすく伝えようとする話し合い活動が展開され、伝え合う力を高めることができた生徒もいた（資料9下段）。しかし、学級の相手以外になると顔を下に向ける、原稿だけを見る、早口になる等「相手」に「伝える」、「伝えたい」という意識が弱いことが感じられる。これは、「人前」に出て発表する成功体験が少ないため、自信がなく緊張し、考えがまとまらないためだと考えられ、「話す・聞く」能力の課題が見られた（資料10）。

自分と同じ考えだったり、違う考えだったりして（友達から）	友達の意見を聞いて、なるほどー。と思うことがあったので、
それを聞くことで、考えが少し変わったりして深めることができた。	考えを深められたと思う。

資料8 友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができた生徒の理由

ペアで伝えるときに、改善すべきことも踏まえてしっかり発表できた。	アドバイスを生かして、伝えることが出来たから。
私が苦手だったグループと意見を交すというものが前より出来るようになったので、今回の大団円の授業が全然なことを学べたと思いました。	

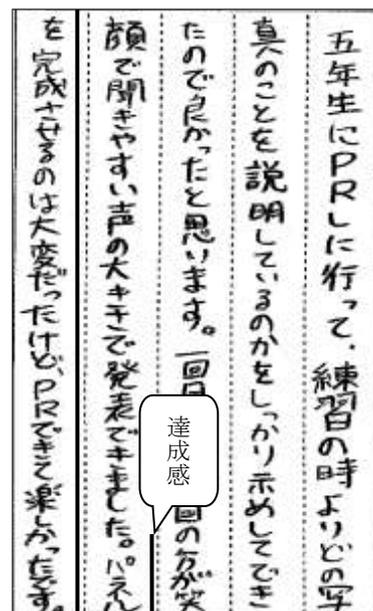
資料9 自分の考えを人前で堂々と伝えることができた生徒の理由（上段）と感想（下段）

効果的な話し方はできたと思うけど、緊張して早口になったり、声が小さくなったから。	考えを話したけど、堂々と発表できなかったし、分りずらく伝え方が分からなかったから。
--	---

資料10 自分の考えを人前で堂々と伝えることができなかった生徒の理由

「組踊『手水の縁』については、地域の方や家族、それ以外の方にも伝えたいと思うか」に対して、「はい」と回答した生徒は事前16%から、事後は83%となった。これは、単元を貫く言語活動の過程で、生徒が組踊「手水の縁」について自ら調べたことをグループで伝え合い、様々な思考を凝らすことで、歌碑「手水の縁」を自分のものとして捉え、郷土文学の魅力を知り、他者へ伝えたいと思う意欲に繋がったと考えられる（資料7）。このことは、グループや異年齢集団の前で伝え合うことで、同年齢や異年齢の他者からのアドバイスや「最初は『手水の縁』というのを分からなかったけど、教えてもらったので分かった」、「（山戸と玉津の関係をロミオとジュリエットに）例えにして優しく教えてくれたのでよかった」等の感想をもらうことで達成感につながったのではないかとと思われる（資料6）。その成功体験から自信を持ち、歌碑や組踊「手水の縁」の内容を他者に伝えようとする意欲へと繋げることができたのではないかと考えられる（資料7）。

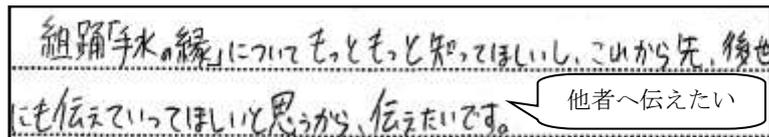
以上のことから、人前で考えたことやまとめたことを伝える場の工夫は、生徒の「伝え合う力」を高めるのに課題は残るが、「話す・聞く」ことへの意欲を高めることについては効果的であった。



資料6 生徒Bの5行まとめ

成功

10月は未記入であったのが、2月のアンケートでは下記のように記述。



資料7 生徒Bのアンケート記述

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) ペアやグループ、学級全体や異年齢集団の前で考えたことやまとめたことを伝える場の工夫は、生徒が相手意識を持って伝えようとするのに効果的であった（V-3）。
- (2) 歌碑「手水の縁」を効果的な話し方でPRする単元を貫く課題解決的な言語活動は、生徒が教材から考えたものの見方や考え方、それをどのように伝えるかを互いに「話すこと・聞くこと」を通して、「伝え合う力」を高めるのに有効であった（V-2）。
- (3) 地域の歌碑「手水の縁」を教材化することは、生徒が郷土文学に興味・関心を持ち、その価値や内容を他者に伝えようとする態度を育てるのに有効であった（V-1）。

### 2 今後の課題

- (1) 相互交流の場における内容の深化を図るための教師の発問の工夫（V-2）。
- (2) 相互交流を活性化させるための「単元を貫く課題解決的な言語活動」の指導過程の改善（V-2）。
- (3) 生徒の話し手・聞き手を意識した「話す・聞く」能力の向上（V-2）。
- (4) 授業における制作した視聴覚教材の効果的な活用（V-1）。

### 〈主な参考・引用文献〉

文部科学省	『中学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版社	2010年
富山哲也編著	『“単元構想表”でつくる!中学校新国語科授業 START BOOK 第2学年』	明治図書	2011年
樺山敏郎編著	『実践ナビ!言語活動のススメ モデル30』	明治図書	2013年
花田修一 他3名共同編集	『実践国語研究 319号』	明治図書	2013年
大城立裕監修/漢那留美子漫画	『沖縄学習まんが 組踊がわかる本II』	沖縄文化社	2007年